

横浜市小学校社会科研究会

学年部会

研修会記録

第2号

令和5年 8月1日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

7月5日（水）

提案 寺沢 琢郎 先生（西本郷小）

【会 場】

平沼小学校

司会 諸橋 奈苗 先生（都筑小）

記録 山崎 聡馬 先生（川上北小）

1 提案理由 単元名

単元名「わたしたちの暮らしを支える政治 ～いたち川の移り変わりともちづくり～」

2 提案者より

今回は、いたち川を材として取り上げた。いたち川は、校区内にあり、子どもたちの生活に深く根付いているため、意欲を高めることができた。学習の流れとしては、改修工事を何度も行ったいたち川に対して、「どうして、いたち川の姿が変わってきたのだろう。」という学習問題を柱に展開した。資料として、2度の工事に関する変遷の年表、当時の写真や記事を使った。

反省として、教師が話し過ぎたことや、資料内容の難しさがある。特に「教師の出」については、今後にも生かしていきたいため、先生方がどのように心がけているのか気になる。

3 視点

視点① 子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

- 身近ないたち川の姿の変容を取り上げることで、子どもたちが自分の経験をもとに意見を発信できていた。
- 男6の児童が意見を活発に出していきつつ、資料とも照らし合わせながら進めていき、考えが深くなっていった。
- 主体的な学びを引き出すための、教師の手立てに工夫があると、より活発になるのではないか。
- 発問の中で、教師が授業を1回ずつ切ってしまうのではなく、資料と関係づけて展開していくとよりよくなるのではないか。
- 誘導するようになっていたところもあったので、資料を上手く使いたい。

視点② 個を生かし、協働的に学びを深める授業づくり

- 学びを深めるために、子どもたちが見たい資料であったのか。
- 子どもたちが、どれだけ疑問をもち、見通しをもって学習に取り組めたか。そのためにも手元に資料があると、子ども自身が考えを深めていくのではないか。
- 資料を、動画や音声にすることで子どもたちの上手く入っていくかもしれない。
- 材が身近なことなので、子どもがとっつきやすいものではあるが、調べていく中でどんどん難しくなっていくことも予想される。いたち川の近くに長年住んでいる人にインタビューするなど、具体的にしていけば、もっと分かりやすくなるかもしれない。

4 講師の先生方より

近年、「若者の政治離れ」が騒がれているが、このような単元を取り組んでもらうと、子どもたち自身がかなり政治について興味をもつと思う。その視点で見れば、「いたち川」という身近な材を扱ったことがとても良かった。

しかし、指導要領で、この領域で記載されている、「地域経済の活性化」を取り扱うことに関して言えば、今回の単元はこれにつながるのかといえば吟味する必要がある。「地域経済の活性化」には、法律・金に関わる。その点をもっと追及してほしい。社会に関しては、「人・もの・こと」を重視する。今回は、「もの」はいたち川、「こと」は法律や工事の過程、「人」がまだ不透明な部分があったため、「人」についても挑戦してほしい。

文責 山崎 聡馬 (川上北小学校)